

2021 年度日本建築学会東北支部研究補助報告

「建築材料分野における研究教育活動のオンライン化とその実践に関する調査研究」

材料部会
部会長 石山 智

2021 年度の材料部会では、前年度活動において見えてきた教育分野におけるオンライン技術の可能性について検討するため、「建築材料教育における遠隔授業とその効果」をテーマとして幹事会を 2 回、部会として施工部会と合同でオンライン見学会を 1 回開催し、活動を行った。また、当年度は「建築材料分野における研究教育活動のオンライン化とその実践に関する調査研究」として支部研究補助の助成を受け、オンライン化による教育効果と新たな教育方法について研究を行った。

新型コロナウイルスの脅威と様々な影響の中で、当年度も部会活動には少なくない制限が課された状況であったが、開催した 2 回の幹事会では昨年度までに行われた情報共有や意見交換などの結果と、今年度行われた各大学における教育の状況などをもとに建築材料学教育のオンライン化とその利点およびその教育効果について検討した。その中で、東北大学で実践されているオンライン現場見学会が、学生側にも提供する現場側にも好評であることが情報共有されたことから、施工部会の協力を得て 5 月 26 日(木)にオンライン現場見学会を部会活動の一部として実施した。この見学会では、オンライン見学会に必要な具体的な設備や環境などが示されると共に、その効果と利点、問題点などが確認され、非常に有意義な見学会となった。支部補助研究としてこれを実践例として、これまで情報共有を行ってきた建築材料学教育のオンライン実施例などをまとめ、報告した。

研究教育活動のオンライン化は、コロナ禍の状況にかかわらず機器類の開発や手法の向上により今後もさらに進化していくものと予想される。建築材料学教育の向上のためにも、新たな教育方法に関する情報収集を行っていきたいと考える。